平成 30（2018）年度～令和 2（2020）年度科学研究費補助金（基盤研究 S）「蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究」

日本の水中考古学と北海道

2019. 11. 30［土］12：40 ～

▶ 申込不要・入場無料

会 場 北海道大学 文系共同講義棟 1 番講義室
人文・社会科学総合教育研究棟 1F

海や湖に沈んだ遺跡のことを水中遺跡、これを研究する考古学を水中考古学と呼びます。

北海道は本州やサハリンとの交流・交易や戊辰戦争など、文化的歴史的に海との深い関わりがあります。1974 年には江差町沖に沈んだ開陽丸の調査が行われ、日本水中考古学の先駆けとなりました。

21 世紀に入り、北海道を含む全国各地で新たな水中遺跡の調査が再び始まりつつあります。これを受け、文化庁でも水中遺跡の確認と保護制度・体制の充実を目指したさまざまな活動に取り組みはじめています。

今回のシンポジウムではこのような最近の動きを紹介し、水中遺跡の重要性や意義、具体的な制度や調査の在り方などについて、広く知っていただくことを目的とします。

プログラム

12：40	【趣旨説明】 臼杵　勲（札幌学院大学人文学部）
12：50	【基調講演】　鷹島海底遺跡の調査と日本の水中考古学 池田榮史（琉球大学国際地域創造学部）
13：35	【事例報告】　上ノ国町上ノ国漁港・昇平丸の調査 塚田直哉（上ノ国町教育委員会）
14：20	【事例報告】　森町森桟橋跡の調査 高橋　毅（森町教育委員会）
15：05	休憩（10 分）
15：15	【基調報告】　日本における水中遺跡保護の取り組み 森先一貴（文化庁文化財第二課）
16：10	全体討論（準備 10 分）
16：40	終了

主 催 札幌学院大学総合研究所
平成 30（2018）年度～令和 2（2020）年度科学研究費補助金（基盤研究 S）
「蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究」
（研究代表者・琉球大学国際地域創造学部教授・池田榮史）

協 力 北海道大学大学院文学研究院考古学研究室、北海道考古学会

連絡先 札幌学院大学 臼杵 勲研究室 〒069-8555 北海道江別市文京台11 Tel.011-386-8111(代)

日本の水中考古学と北海道

日本は島国であることから、豊富な海に関わる歴史事象を有している。しかし、現在把握されている水中遺跡は非常に少ない。一方、水中文化遺産条約などをめぐる国際的な水中遺跡保護の取り組みが進展する中で、近年日本においても水中遺跡の確認と保護制度・体制の充実が提唱されている。鷹島海底遺跡の史跡指定化なども受け、現在、水中遺跡は文化財保護の重要項目の一つとされ、調査方法の手引きの作成も進められている。また北海道は、本州やサハリンとの交流・交易や戊辰戦争など、歴史的にも海との関りが深い。そして、1974 年の江差町開陽丸の調査は、水中考古学の先駆的な例となった。しかし、その後は水中考古学の実践は活発化せず、一般的な認知度も低く、水中遺跡保護への理解も十分とはいえない。本シンポジウムでは、水中遺跡の重要性や意義、具体的な制度や調査の在り方などについて紹介し、水中考古学の学術研究と水中遺跡の保護の両面の促進に寄与しようとするものである。

profile

臼杵　勲
Isao Usuki
札幌学院大学人文学部

1959 年札幌市生まれ、明治大学文学部史学地理学科考古学専攻、筑波大学大学院歴史人類学研究科博士課程単位取得退学、奈良国立文化財研究所研究員（当時）、文化庁記念物課文化財調査官、札幌学院大学人文学部助教授を経て、2006 年 4 月より札幌学院大学教授

主な論著：『鉄器時代の東北アジア』同成社　2004 年、『東アジアの中世城郭　女真の山城と平城』（城を極める）吉川弘文館　2015 年

池田榮史
Yoshifumi Ikeda
琉球大学国際地域創造学部

1955 年熊本県生まれ、國學院大學文学部史学科考古学専攻、同大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程前期修了、國學院大學文学部助手、琉球大学法文学部助手・助教授・教授を経て、2018 年 4 月より琉球大学国際地域創造学部教授

主な論著：「沖縄陸軍病院南風原壕群」『遺跡に学ぶ』137 新泉社　2019 年、「海底に眠る蒙古襲来－水中考古学の挑戦－」『歴史ライブラリー』478 吉川弘文館　2018 年

塚田直哉
Naoya Tsukada
上ノ国町教育委員会

1976 年愛知県生まれ、富山大学人文学部国際文化学科考古学コース卒業後、青森県教育委員会文化財保護課嘱託、上ノ国町教育委員会文化財課嘱託を経て、2008 年 4 月より現職（上ノ国町教育委員会文化財グループ（学芸員））

主な論著：「北海道上ノ国町洲崎館跡出土の中世陶磁器」『貿易陶磁研究』№ 35 日本貿易陶磁研究会　2015 年、「北海道日本海沿岸の 14 ～ 15 世紀における流通拠点の変遷とその背景」『陶磁器の考古学』第三巻　雄山閣　2016 年

高橋　毅
Tsuyoshi Takahashi
森町教育委員会

1977 年神奈川県生まれ、國學院大學文学部史学科考古学専攻、同大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期単位取得退学、2007 年 4 月より現職（森町教育委員会社会教育課文化財保護係）

主な論著：「北海道鷲ノ木遺跡の保存の経緯と今後の課題について」『東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター紀要』№ 5　2015 年

森先一貴
Kazuki Morisaki
文化庁文化財第二課

1979 年京都府生まれ、大阪大学文学部人文学科、東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学博士課程修了、独立行政法人奈良文化財研究所研究員、文化庁記念物課文部科学技官を経て、2019 年 1 月より文化庁文化財第二課文化財調査官

主な論著：『旧石器社会の構造的変化と地域適応』六一書房　2010年、『境界の日本史』朝日新聞出版　2019 年（近江俊秀と共著）

会　場

〒060-0808
北海道札幌市
北区北 8 条西 5 丁目

連絡先

札幌学院大学
臼杵　勲研究室
〒069-8555
北海道江別市文京台11
Tel.011-386-8111（代）